

アニメーション
ビデオ
カラー／全26分
5×(5分～5分半)

■企画
雪印メグミルク株式
会社

スタッフ

■製作
村山憲太郎
山田三枝子
■脚本・演出
森 吉美
■アニメーション
酒井浩史
■実写撮影
逢坂芳郎
■選曲
徳永由紀子
■ナレーター
玉川砂記子

『にっぽんミルクものがたり』は、日本で牛乳や乳製品が多くの人々に親しまれるまでの酪農の歴史を全5話の短編アニメーション動画で紹介する。

雪印メグミルク株式会社の公式 HP の学ぶ・楽しむ「ミルクビレッジ」で公開。



牛乳や乳製品が、多くの人に親しまれるまでには、長い年月といくつもの物語が連なっている。

第1話 『牛乳が薬だったころ』（5分17秒）は、牛乳が薬だった飛鳥時代から明治時代まで。

第2話 『未開の大地 北海道』（5分21秒）は、未開の大地だった北海道に酪農を芽生えさせた開拓の指導者、エドウィン・ダンと、根付かせた信念の人、宇都宮仙太郎（うつのみやせんたろう）が登場する物語。

第3話 『酪農大国北海道への歩み』（5分15秒）は、北海道の酪農を育て、困難を乗り越えていく、行動の人、黒澤西蔵（くろさわとりぞう）と、技術の人、佐藤貢（さとうみつぐ）の物語。

第4話 『雪印メグミルクのおいしさのひみつ』（5分37秒）は、今から100年ほど前から現在までの、アイスクリームとバターとチーズの歩みを紹介。

第5話 『雪印メグミルクのもっとおいしく元気に』（5分24秒）は、昭和のはじめから、現在までの、牛乳、粉ミルク、ヨーグルトの歩みを紹介する。

「未来は、ミルクの中にある」。酪農の先人たちが目指した「もっとおいしく元気に」の思いは、今も雪印メグミルクに引き継がれている。